

地域・離島歯科医療実習 レポート

学籍番号： 4318100361 氏名： 東元 郁菜子

実習先： 屋久島町 口永良部島 実習期間：2023 年 7月 11日 ~ 7月 14日

1. 自然環境

口永良部島は、屋久島の西方約 12km に位置し、西北西から東南東の方向に長軸をもつ、ひょうたんの形をした火山島である。

面積:38.04k m²、周囲:49.67km、最大幅:5km、最高点:657m

中央部のくびれた部分を境に、西部の古期火山群地域と東部の新期火山群地域に分けられる。最高点は古岳に位置し、低地は海岸線の湾入部にわずかに見られ、周囲の大部分は幅の狭い磯に海食による急な崖が迫っている。現在も活発に活動する新岳は肥沃な大地、豊かな海、温泉等へ恩恵をもたらしている。2015 年の大噴火では島民全員が屋久島へ避難した。また「緑の火山島」と呼ばれるほどに豊かな自然に恵まれ、島全体が国立公園であり、エコパークでもある。自然性の高いスダジイ等の森林が残され、放牧牛がのどかに暮らす牧野、サンゴ礁と多くの魚が見られる海と非常に特異な景観に溢れる。国の天然記念物に指定されているエラブオオコウモリの生息地である。翼が長く、夕方から活動を始めるため、夏の夜には鳴き声が聞こえてくることもある。道中では野生のシカや放牧された牛に出会える。

2. 社会的背景

令和 2 年 10 月 1 日時点で、人口:93 人、年少人口:男 4 人女 11 人、生産年齢人口:男 25 人女 14 人、老年人口:男 17 人女 22 人、高齢化率は 41.9%である。

農業について、畜産農家では島の自然を生かした鹿児島県産黒毛和牛の周年放牧、子牛繁殖が主である。口永良部島活行事業組合では屋久島のブランド焼酎「三岳」の原料である甘藷の生産が中心である。

島付近が暖流と寒流の混ざり合う絶好の漁場であることから水産業が盛んである。伊勢海老は重要な換金特産物であり、屋久島の市場や漁師の個人的なルートで島外に出荷される。その他、ミーバイやブダイ、夜光貝、カメノテ、タカラガイ、薬膳 に使用されるエラブウミヘビ等も有名である。

林業では、天然の椎の木が森になっているところもあり、かつては天然木椎の木の椎茸さばいが行われていた。5 月から 6 月にかけて琉球竹の竹の子が生え、採取しやすく、アクがないため美味しくいただける。

3. 住民の生活

ごみ処理：可燃物、不燃物は島内で収集後、運送会社により屋久島へ搬送して処理されている。

し尿処理：定期的にバキュームカーが収集し、その後屋久島の施設で処理をする。

浄化槽がある施設は役場と学校のみである。

産業廃棄物：島内に処理施設は無く、島外に持っていく必要がある。

水道：簡易水道を使用し、豊富な山水を活用している。

公営住宅：持ち家の他、赴任した公務員用の社宅がある。民営の貸家は無く、公営で平成 9 年度に建てられた木造の定住促進住宅が 2 軒ある。

電 気：重油を使用した内燃力発電所が 2 ユニットあり、400kW の発電容量がある。

教 育：

小中学校 町立の小学校と中学校が同じ敷地内にある。生徒数が少ないため、複式学級である。

幼児教育 保育園、幼稚園等はなく、町からの委託で本村区が幼児学級を本村公民館で運営している。

山村留学制度 南海ひょうたん島留学を実施しており、年に数名程度に受け入れがある。

独自の活動で遠足での火山登山や海洋研修等がある。

社会教育 図書館の巡回車が年に 1～2 回巡回する。

4. 医療供給体制

医 療：口永良部へき地診療所があり、看護師 1 名が常駐している。

鹿児島大学歯学部の高島巡回診療により、歯科検診が半年に一度実施されている。

緊急医療：急病やケガ人が出た場合、チャーター船か鹿屋自衛隊からヘリコプターが派遣され、鹿児島本土の病院へ搬送される。ヘリコプターは要請から 30 分程で島に着く。要請件数は 2 年に一度程度である。

産科医療：島内に産科設備はなく、妊娠期間が 7 ヶ月を過ぎると町営フェリー太陽への乗船は医師または看護師の認可が必要となる。現時点での屋久島町の補助事業として、1 回の出産で約 5 万円の出産費用補助がおりる。

高齢者福祉：介護保険利用者数 7 人（訪問介護、福祉用具レンタル、ショートステイ）

社会福祉協議会と島内ボランティアによる介護教室が月に 1 回程度行われる。

デイサービスで民宿調理した弁当の宅配サービスがある。

実習概要

日 付	内 容
7月11日 (火)	集合 南埠頭ターミナル 7:45 移動 鹿児島市 8:30 → 屋久島 12:30 (フェリーやくしま) 屋久島 13:00 → 口永良部島 14:35 (フェリー太陽2) 民宿番屋 到着
7月12日 (水)	準備 8:00～ 診療所にてユニット、物品の用意 診療 9:00～12:00 パノラマ撮影、う蝕治療、歯周組織検査、 PMTTC (歯石除去・歯面清掃)、抜歯 昼休み 12:00～13:00 昼食 診療 13:00～17:00 パノラマ撮影、う蝕治療、歯周組織検査、PMTTC
7月13日 (木)	診療 9:00～12:00 パノラマ撮影、歯周検査、う蝕治療、歯石除去、抜歯 昼休み 12:00～13:00 昼食 診療 13:00～17:00 パノラマ撮影、歯周検査、コンポジットレジン充填 講話・ブラッシング指導 9:30～10:15 小学校、10:30～11:20 中学校

7月14日 (金)	民宿番屋 出発 移動 口永良部島 10:30 → 屋久島 12:05 (フェリー太陽2) 屋久島 13:30 → 鹿児島 17:40 (フェリーやくしま)
--------------	---

振り返り記録

鹿児島大学歯学部入学以前より、離島実習があることを知っていたが、正直なところ、あまり興味は持っていなかった。鹿児島出身だからかもしれないが、離島は私自身にとってなんとなく身近な存在であり、いずれ歯科医師として離島診療に参加するだろうから、何も出来ない学生の時に行っても仕方がない、と考えていたためだ。しかし、5年生の3月にマレーシア・マラヤ大学歯学部で短期研修に挑戦したことをきっかけに、まだ何も始まっていない段階で何も出来ないを決めつけてはいけないと学んだことを再認識し、離島実習に参加することを決めた。特に、歯科医師が常駐していない小さい島を選択することがポイントだった。説明会后、意気投合した友人とあれよあれよと話が進み、口永良部島に行くことが確定した。

いざ診療が始まると、慣れない診療環境に終始あたふたしていた。どこに何があるかを把握しないままアシストにつき、患者さんが横になっている状態で、物を探したり、タービンが回転しなかったりと好スタートとは言えない状態だった。しかし、用意周到な歯科医師会職員の方、臨機応変に治療される先生方の指示を一つずつこなしていくうちに、徐々に口腔内ではなく、患者さんに対して目を向けることが出来るようになっていったように思う。

半年に一度の歯科診療を楽しみに来てくださっている方、つい先程補綴装置が取れてしまった方、20年以上ぶりに歯科診療に来られた方とお話を伺っていると、やはり鹿児島大学病院で臨床実習を積むだけでは出会えないような患者さんが多く、「島ならではの」を早々に体感した。

想像以上にいかなる処置でも可能そうな程、様々な器具や材料が揃い、普通の診療よりも時間をかけて行う治療を間近で見学したことは、勉強になること満載であった。口腔内診査後、パノラマ撮影を行い、直ぐにう蝕治療へと続く。次回診療に訪れるのは半年後であることを念頭に、必要な処置を可能な限り全て目つスピーディーに行う。

ご自身で気になっていたことや痛みが緩和されたことで満足気に帰られる姿を見ると、アシストについていただけの私まで嬉しい気持ちになった。一方で、補綴装置の製作を2日間の診療スケジュールで行うことは難しく、屋久島や鹿児島県本土での継続した治療を勧めなければならないような場面ではもどかしさを感じた。

2日間でいらした患者さん数が人口約90名中15名程という数字は、離島実習に参加を申し込んだ当初想定していたものよりもはるかに少なかった。勝手ながら島民の3分の2くらいの方が続々といらっしゃるのではと予想していたが、後日調べた鹿児島県全体の定期受診率自体が4割弱であるのだから、身近に感じられない歯科診療へ足を運ぶことはハードルが高いと考えられた。

私自身は参加出来なかったのだが、3日目の午前中には島の小中学校にて、講話及びブラッシング指導を行った。話を聞いてみると、島の子供達の歯科への興味は思いの外強く、質問コーナーでは的を射た質問が積極的になされたそう。家庭での歯科教育は母から子へ、という流れが一般的だと思われるが、家族のつながりが県本土と比べ広い島では、学校で子供達の意識を高めて自宅で実践しても

らい、その様子を親世代や祖父母世代等が見て、家族全員で口腔ケアを行ってもらおうという形もあるのかもしれない。

離島実習中お世話になった、民宿番屋さんでは広々としたお部屋で身体を休め、ご当地食材を用いた美味しい料理にお腹いっぱい、非常に快適に過ごさせていただいた。離島実習の楽しみの一つであったと思う。おすすめの温泉スポットを教えてください、丹精込めて育てた大きなスイカをふるまってくださいと、温かい女将さんに、気付けば「ただいま。」とまるでずっと前から住んでいたかのような挨拶をしていた。最終日は心からまだまだここに居たい、という名残惜しさがあった。夏の離島実習では、天気良ければ天の川が見られる。参加する学生さんはぜひ、夜空を見上げることを忘れないでほしい。

4 日間の実習を終えて思うことは、離島実習に参加して本当に良かった、である。診療で出来たことに満足し、出来ないことにもどかしさを覚え、島の方々の温かさに触れる。夜には美味しいご飯をいただきながら、指導医や研修医の先生方と、将来の進路について熱い会話をする。どこを切り取っても、充実した時間を過ごしていた。離島診療で出来ることは限られているのかもしれないと考えていたが、多種多様な治療が可能であり、その場で出来ることを全力で行い、それを継続していくことが重要なのだと思う。あれもこれもと欲張った末、中途半端になってしまいそうな私の考えは大きく変わった。あわよくば、受診患者さん数を伸ばすにはどうすべきか、の対策を練り、実践する機会があればと思う。

帰りのフェリーで出会った島の方が仰っていた、「歯の治療が出来ないのがストレスなのよ。」という言葉をお忘れず、多くの方々に歯科医療を届ける歯科医師になるという目標を達成するべく、日々精進して参りたい。

